

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 9 月 6 日現在

機関番号：34445

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26285204

研究課題名(和文) 学校における美術鑑賞の授業モデルの拡充と普及についての実践的研究

研究課題名(英文) A Practical Research to Expand and Disseminate Models of Art Appreciation Education at School

研究代表者

松岡 宏明 (Matsuoka, Hirotohi)

大阪総合保育大学・公私立大学の部局等・教授

研究者番号：10321184

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 7,700,000円

研究成果の概要(和文)：図画工作科・美術科における鑑賞学習指導には、その目標設定と評価の在り方に課題があることを全国調査により突き止めた。そこで、鑑賞学習ルーブリック(コモンルーブリックと題材ルーブリック)を作成し、現場教員に実践をしてもらいながら共同研究を重ね、全国3箇所で開催実践報告会を開催した。また、同時に『鑑賞学習ルーブリック&ガイド』5000部を完成させ、学会や研究会などを通して全国の実践者に届けた。さらにその成果と課題を学会誌に研究論文として発表するとともに、学会の口頭発表を4回に渡って行った。

研究成果の概要(英文)：Through the nationwide survey, our research team found that there are problems with setting goals and evaluations in art appreciation education. So, we created a rubric of art appreciation, conducted joint research with school teachers, held a practical report meeting at three locations throughout the country. At the same time, we completed 5000 copies of "Rubrics and guides for art appreciation" and delivered them to teachers nationwide through academic societies and research associations. In addition to presenting its achievements and issues as academic journal research papers, the conference's oral presentation was conducted four times.

研究分野：美術教育

キーワード：鑑賞教育 ルーブリック

1. 研究開始当初の背景

1990年代初頭より、美術館を中心に教育普及のための鑑賞学習が注目を浴び始めるようになった。2000年代に入ると、学習指導要領の方針もあり、美術科及び図画工作科の授業においても鑑賞学習をより重視する方向性が求められた。

そこで、日本美術教育学会の会員で構成された本研究チームは、まず実態を把握するために全国的調査を実施し、「図画工作科・美術科における鑑賞学習指導についての調査報告」（平成15・16年度『美術教育における「鑑賞」学習のカリキュラム開発に関する研究』基盤研究（B）一般、研究代表者大嶋彰）をまとめた。それによれば、学校現場において鑑賞学習の重要性がじゅうぶんに理解され、実践されているとは言い難い状況が確認された。内的要因としては教員自身の指導への自信の欠如、外的要因としては学校における学習ツールの不備等が明確になった。

その後学会等では、鑑賞学習の理論研究や美術館と連携した実践などが提案されてきてはいるが、一部の研究者・教員によるものにとどまっている感は拭えず、広域的、網羅的な鑑賞学習の底上げになり得ていない状況は依然として残されていた。美術文化の伝承や発展、再解釈や再創造が滞りかねない現状は看過することはできないと認識していた。

2. 研究の目的

本研究チームは平成15年より、美術鑑賞学習についての全国調査、そのカリキュラムに関する理論研究、教材としての書籍編纂、視覚教材の作成及び授業モデルの開発を行ってきた。

平成24年度、平成25年度（補助金なし）に、これら研究の成果についての小中学校等の受容状況を分析した結果、普及化への課題が認識された。そこで今回、科研費補助金をさらに活用してこの解決に当たる。

具体的には、まず授業モデルの量的拡充を図り、小中学校等での実践的検証を通して質的ブラッシュアップを行う。そこに創造活動としての鑑賞学習の目標設定と評価方法の再構築を重ねながら、質、量ともに充実した教材と指導方法及び評価方法を具体的に提示し、広く発信する。

3. 研究の方法

- ① 図画工作科及び中学校美術科における鑑賞学習指導についての全国調査を11年振りに実施する。
- ② 鑑賞学習ルーブリックを作成し、学会や研究会を通して全国の実践者に届けるとともに鑑賞学習ルーブリックを活用した授業実践を幼稚園、小学校、中学校で実施していただく。
- ③ 鑑賞学習ルーブリックを活用した授業実践の報告会を実施する。

4. 研究成果

①平成26年度

計6回（関西国際大学1、名古屋経済大学名駅前サテライトキャンパス、滋賀大学、大阪教育大学、国民宿舎サンロード吉備路、関西国際大学2）の研究会を重ね、研究を進めた。

年度の研究計画としては、1.11年振りの鑑賞学習の関する全国調査、2.以前に完成させた授業モデルの活用状況の検証、3.型に分けた鑑賞学習の新しい授業モデルの考案、4.鑑賞学習指導の評価に関する理論研究の4点を挙げた。

1.については、11年前のアンケート調査には様々な点で不備があることが認められ、その後の鑑賞学習を巡る状況の変化もあり、単なる焼き直しでは成果が上がらないことを自覚した。そこでアンケートの全体にわたって時間をかけて抜本的に見直しを図った。また、小学校と中学校を分けて実施することとした。まずは小学校版を完成させ、平成27年1月に全国に送付（3773校）、784校（回収率20.8%）から回答を得ることができた。平成27年3月末時点で集計が終了。また並行して中学校版が完成させ、平成27年度春の実施を確定させた。1.の結果について、仮説として「鑑賞学習指導の目標設定と評価の方法や運用」についての課題が上がってくると考えた。そこで平成26年度の研究会では、2.3.に優先して、4.の理論研究を先行した。ルーブリックに関する文献、鑑賞学習に関する学術論文・実践研究論文12本を批判的に読み込み、平成27年度以降の「授業モデルの拡充と普及」へとつながべく、基礎的な理論研究を行った。

②平成27年度

年度間5回（関西国際大学、岡山大学、長久手市文化の家、滋賀大学大津サテライトプラザ、東京学芸大学）の研究会を開催し、チーム全体として研究を進めた。

平成26年度末に実施した、小学校図画工作科における鑑賞学習に関する全国調査（3778校に送付、784校から回答を得た。回収率20.8%）の全集計結果を、日本美術教育学会HP（<http://www.aesj.org/>）に公開し、誰でもその結果を実践や研究に利用できるようにした。また分析結果を、日本美術教育学会学術研究大会静岡大会（平成27年8月）にて口頭発表するとともに、日本美術教育学会誌『美術教育』に論文として発表した（平成28年3月）。

また、平成27年度に実施した、中学校図画工作科における鑑賞学習に関する全国調査（3778校に送付、930校から回答を得た。回収率26.4%）の全集計結果を、日本美術教育学会HPに公開し、誰でもその結果を実践や研究に利用できるようにした。また分析結果を、美術科教育学会大阪大会（平成28年3月）にて口頭発表した。併せて同学会大会にて、小学校と中学校の比較分析及

び平成 15 年度時の調査との比較分析についても口頭発表した。

上記の調査によって明らかになった鑑賞学習における「評価と目標の指標」の不足状況に対して、鑑賞学習の発達段階別コモンルーブリック(暫定版)を完成させた。またこのコモンルーブリックに沿って、題材に貼り付いたルーブリックを 3 点(暫定版)完成させた。

平成 28 年度は、このルーブリックを使った実践を展開し、その中で明らかになった課題を解決しながら、より精度の高いコモンルーブリックとして完全完成させ、学会組織や発表の機会を利用して普及に取り組み、鑑賞学習の拡充をねらうことを計画した。

③平成 28 年度

年度間 8 回(兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス 1、滋賀大学大津サテライトプラザ、兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス 2、同志社大学、滋賀大学、名古屋経済大学名駅サテライトキャンパス、みかさ荘&奈良文化会館、岡山大学&ピュアリティまきび)の研究会を開催し、チーム全体で研究を進めた。

鑑賞学習ルーブリック(コモンルーブリックと題材ルーブリック 9 つ)を完成させることができ、それを全国の実践者に実践してもらい、活用の有効性についてのデータを収集し、その成果と課題を学会大会や論文として発表した。その結果として、「鑑賞学習コモンルーブリックとその活用について」のパンフレット原稿がほぼ仕上がり、2017 年度に全国の実践者に頒布できる見通しがついた。

具体的には、以下の実績を残すことができた。1. 日本美術教育学会学術研究大会滋賀大会にて、「鑑賞学習におけるルーブリック活用の事例研究」について研究発表(口頭)を行った。2. 「小学校図画工作科における鑑賞学習指導についての全国調査報告」並びに「同中学校美術科」を、日本美術教育学会学会誌『美術教育』(2017 年 3 月 31 日発行)に発表した。3. 研究論文「鑑賞学習ルーブリックの作成とその活用に関する一考察」を日本美術教育学会学会誌『美術教育』(2017 年 3 月 31 日発行)に投稿し(査読有り)、採択された。4. 2017 年 8 月に韓国・大邱で開催された国際美術教育学会(InSEA)での研究発表を行った。

④平成 29 年度

2017 年 8 月に『鑑賞学習ルーブリック&ガイド』(5000 部。ハードアート紙、A3 の二つ折り 4 ページもの)を完成させ、美術教育関連学会、研究会において全国的に配布した。そして、本ルーブリックを活用した実践を、幼小中高の 26 校園で行っていただき、本研究チームと共に議論を深めた。また、実践者と本チームが会して、7/23 に立教大学にて、10/15 に岡山県立美術館にて、

10/29 に滋賀大学サテライトキャンパスに実践発表研修会を開催した。それぞれ 30~50 名の参加を得た。

成果としては、本ルーブリック活用の有効性が認められたことに加え、以下が挙げられた。1. ルーブリックが一つのプラットフォームとなることで、各実践が相対化されず、議論が噛み合い、指導力向上に寄与できた。2. 国語科や書道科と連携した実践を展開することにより、図工・美術科固有の身に付けさせたい力をより明確にすることができた。3. 本ルーブリックは、書道における鑑賞教育にも援用できることが確認できた。

課題は、本ルーブリックの精査に加え、以下の通りである。1. 当該レベルを達成したとみられる具体的な子供のパフォーマンス、姿について、より明確にしていく必要がある。2. 各レベルの部分に、当レベルを達成させるための手立て・方法を貼り付けていく作業が求められる。3. ある観点をねらいとした際に、どの題材(作品)が適しているかについて、例を挙げて示していく必要がある。4. 子供の反応、姿を見取り、どう評価するのかについてカリブレーション(評価の軸合わせ)を不断に行っていく必要がある。5. 新学習指導要領が目指す、身に付けさせたい資質・能力と本ルーブリックには齟齬はないが、その対応性を明確に示す必要がある。

また、2018 年 3 月に美術科教育学会(於滋賀大学)にて、研究代表者がこれまで 4 年間の研究総括としての研究発表を行った。70 名の参加者を得た。

以上の成果を上げてきたが、残された課題に取り組むべく、平成 29・30・31 年度、基盤研究(B)「美術鑑賞学習のルーブリック評価と授業モデルの普及に関する実践的研究」(課題番号：17H02698、研究代表者：新関伸也、研究分担者：松岡宏明、大橋功、萱のり子、藤田雅也、佐藤賢司、村田透、大嶋彰)の採択を受け、研究を継続している。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 6 件)

- ① 泉谷淑夫「比較鑑賞で読み解くフェルメールの造形性」岡山大学大学院教育学研究科研究収録、第 158 号、2015、119-136 頁
- ② 萱のり子「鑑賞活動における言語とイメージの共有に関する一考察」『美術教育』、299 号、日本美術教育学会、2015、8-14 頁
- ③ 松岡宏明「小学校における鑑賞学習指導の現状と課題」『美術教育』300 号、日本美術教育学会 2016、34-41 頁
- ④ 萱のり子「鑑賞授業における題材と方法に関する実践的研究-鑑賞の質に対する課題意識から-」『美術教育』300 号、2016、68-77 頁

- ⑤ 松岡宏明「小・中学校における鑑賞学習指導の現状と課題 ～11・12年振りの全国調査より～」公益財団法人教育美術振興会『教育美術』6月号 (No. 888)、2016、47-47頁
- ⑥ 藤田雅也、松岡宏明、赤木里香子、大橋功、新関伸也、萱のり子、大嶋彰「鑑賞学習ルーブリックの作成とその活用に関する一考察」『美術教育』、301号、日本美術教育学会、2017、24-30頁

[学会発表] (計4件)

- ① 松岡宏明「美術と教育と美術教育 ～美術教師の「みる力」～」第63回日本美術教育学会学術研究大会兵庫大会、於関西国際大学、2014
- ② 藤田雅也、松岡宏明、萱のり子「鑑賞学習におけるルーブリック活用の事例研究」日本美術教育学会学術研究大会滋賀大会、於コラボしかが21、2016
- ③ 松岡宏明、大橋功、新関伸也、藤田雅也“A Report of the Current Situation of Art Appreciation Education in Schools in Japan and A Study of the Effect of Utilizing the Art Appreciation Rubric” 35th World Congress of the Int’l Society for Education through Art EXCO, Daegu, Korea, 2017
- ④ 松岡宏明「『鑑賞学習ルーブリック&ガイド』の作成とその活用実践」美術科教育学会大阪大会、於滋賀大学、2018

[図書] (計3件)

- ① 藤田雅也他11名『造形表現・図画工作』建帛社、2014、182頁中12頁担当
- ② 藤田雅也他24名『幼児造形の研究-保育内容「造形表現」』2014、256頁中12頁担当
- ③ 松岡宏明『子供の世界 子供の造形』三元社、160頁

[産業財産権]

- 出願状況 (計0件)
- 取得状況 (計0件)

[その他]

- ・ 図画工作科及び中学校美術科における鑑賞学習指導についての全国調査集計公表：<http://www.aesj.org/nc2/htdocs/鑑賞学習全国調査/>
- ・ 『鑑賞学習ルーブリック&ガイド』5000部作成、配布

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松岡宏明 (MATSUOKA, Hirotooshi)
 関西国際大学・教育学部・教授-大阪総合保育大学・児童保育学部・教授
 研究者番号：10321184

(2) 研究分担者

・ 赤木里香子 (AKAGI, Rikako)
 岡山大学大学院・教育学研究科・准教授-教授
 研究者番号：40211693

・ 泉谷淑夫 (IZUMIYA, Yoshio)
 岡山大学大学院・教育学研究科・教授
 研究者番号：30263552

・ 大橋功 (OHASHI, Isao)
 岡山大学大学院・教育学研究科・教授
 研究者番号：70268126

・ 萱のり子 (KAYA, Noriko)
 大阪教育大学・教育学部・教授-東京学芸大学・教育学部・教授
 研究者番号：70314440

・ 新関伸也 (NIIZEKI, Shinya)
 滋賀大学・教育学部・教授
 研究者番号 80324557

・ 藤田雅也 (MASAYA, FUJITA)
 名古屋経済大学・短期大学部・准教授-静岡県立大学・短期大学部・准教授
 研究者番号：80524339